

| 2. 事業の概要と成果 | |
|--------------------------------|--|
| (1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標) | <p>1館のモデル図書館が大規模小学校に建設された。また、学校図書館ガイドブックが最終化された。さらに、地方行政職員やモデル学校図書館員、地域のNGO職員計35名が、対象地における子どものための図書館サービスの認知と促進及び学校教員への研修を担うトレーナーとして育成された。</p> <p>モデル図書館の設立を通して、管轄省庁や教員養成校の教員が図書館活動を主とした教育サービスの向上のための能力強化がなされている。</p> |
| (2) 事業内容 | <p>(1) 学校図書室の普及のための基盤強化</p> <p>1-1 学校図書室に関する運営システムの構築</p> <p>1-1-1. 教育省、関係機関との調整</p> <p>1-1-4. 開発されたガイドラインの印刷と配布</p> <p>1-1-5. 地域でのコンサルテーション会議の実施</p> <p>1-1-6. モニタリング・指導の実施</p> <p>マスタートレーナーと、学校図書館ガイドブック（※ガイドラインからガイドブックに名称を変更）の草稿の確認会議を実施し、ガイドブックを最終化した。また、1年次に建設したモデル学校図書館のモニタリングを行い、貸出サービス等についての指導を行った。地域でのコンサルテーション会議については、政情と治安状況を鑑みて開催を見送った。</p> <p>1-2 モデル図書室の建設</p> <p>1-2-1. ナンガハル県大規模小学校へモデル図書館1棟の建設</p> <p>1-2-2. 家具、本の供与</p> <p>1-2-3. 施設維持管理研修</p> <p>1-2-4. 教育省との協議、設計図の改訂</p> <p>1-2-5. 追加図書の配布</p> <p>ナンガハル県の大規模女学校（小、中、高等学校）にモデル図書館1棟を建設した。建設は8月に着工し、2022年3月に塗装を除く大半の建設が完了した。また図書館に設置する家具と図書を購入した。政変の影響により日本からの送金に課題が生じ度々工事の一時中断を余儀なくされ、建設スケジュールに遅延が生じた。そのため、建物の塗装は5月に自己資金で実施し、2022年6月の竣工を予定している。夏季休暇明けの2022年9月より本校児童5,738人と教員170人による利用を予定している（中、高等学校の生徒については暫定政権により通学が許可された場合）。</p> <p>研修について、1年目に建設したカブール県モデル学校図書館の施設管理研修2種を計画通り4月に実施した。一つは建物の施設管理方法に関する管理者向け研修を教員54名（内40名は地域住民を兼ねる）、地域住民代表2名に実施した。もう一つは施設の環境整備や図書の扱い方に関する利用者向け研修を教員29名、図書館員1名、カブール市教育局職員1名の計31名に計画通り実施した。</p> <p>また、3年目に建設対象となるラグマン県の大規模校におけるモデル学校図書館建設に向けた設計図の改訂を教育省との協議の下に行った。さらに図書館の空間利用・家具配置図案を計画通り作成した。</p> <p>1年目に建設したカブール県モデル学校図書館への追加図書の配布は図書館運営状況及びニーズを鑑み、3年次に実施する予定である。</p> <p>1-3 教育省職員、県教育局職員の知識、技能の向上</p> <p>1-3-1. 教育省・局、学校教員を対象にした訪日研修の実施</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>1-3-3. 中央政府担当職員へのトレーナー研修</p> <p>1-3-4. 県教育局職員、教員養成校(TTC)職員、教員研修</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響による渡航制限と情勢不安のため、訪日研修を中止した。</p> <p>トレーナー研修をナンガハル県、ラグマン県のトレーナー計17名を対象に2022年3月29日、30日に実施した。研修には、今後学校教員への研修を担う地方行政職員、地域NGO職員、大学教員、教員養成校職員、モデル学校図書館員が参加した。現暫定政権の方針の下、男性と女性をわけてそれぞれ実施した。研修の内容習得の理解を図るため、事前事後の自己評価を実施した。事前自己評価の平均は4点中1.82点であったが、事後自己評価の平均は3.57点に上がった。研修を通して、本事業で開発した学校図書館ガイドブックの内容への理解とトレーナーの役割の認識が向上したことが伺えた。当初、カブール県を含む3県同時の実施で準備を行っていたが、教育省との調整に時間を要したため、カブール県のトレーナー計18名への研修は、2022年4月に自己資金で実施した。</p> <p>教員研修は政変の影響による活動遅延のため、3年次に実施する予定である。</p> <p><u>1-4 ネットワーク構築</u></p> <p>1-4-1. 学校図書室にかかる関係機関(NGO、教育省)との協議</p> <p>1-4-3. 図書館活動に関する啓発キャンペーンの実施</p> <p>教育省にて学校図書館クラスター会議を1度実施し、学校図書館ガイドラインについての説明や関係機関の活動の共有等を行った。</p> <p>図書館に関する啓発キャンペーン2種を行った。一つは学校冬季休みの期間である1月～3月中旬に、カブールにてラジオを通じた読み聞かせキャンペーンを行った。教育省のラジオ番組を通じて無料で毎日3回(各回放送20分)、全国に放送された。週に録音するおはなしの数を増やすことで、計画していた回数を増やして放送することができた。東部地域の民間ラジオ番組を通じた読み聞かせキャンペーンについては、情勢不安のため、実施を中止した。</p> <p>啓発キャンペーンのもう一つとして、学校をハブとした移動図書館キャンペーンを3県計18校に実施し、延べ6,543人の児童が参加した。</p> <p>(2) 情報文化省管轄の子ども図書館整備</p> <p><u>2-1. 子どものための図書館の設立</u></p> <p>2-1-1. 情報文化省との調整</p> <p>2-1-2. 建設する図書館設計図の作成と建設許可の取得</p> <p>図書館設計図のドラフトの最終化を行い情報文化省・局の承認を得た。また図書館の空間利用・家具配置図案を計画通り作成した。</p> <p><u>2-2. 図書館員の育成</u></p> <p>2-2-3. 図書館員の能力強化研修の実施</p> <p>子ども図書館の建設及び開館を3年次に予定していることから、研修の実施時期を見直し、2年次の実施を取りやめ、3年次に実施する予定である。</p> <p><u>2-3. 関連省庁の能力強化</u></p> <p>2-3-1. 情報文化省・局、図書館員を対象に訪日研修の実施</p> <p>2-3-3. 情報文化省・局職員を対象としたトレーナー研修</p> |
|--|---|

| | |
|-------------|--|
| | <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響による渡航制限と情勢不安のため、訪日研修を中止した。トレーナー研修については、子ども図書館の建設及び開館を3年次に予定していることから、研修の実施時期を見直し、2年次の実施を取りやめ、3年次に実施する予定である。</p> <p><u>2-4. 関係者間（管轄省庁、他 NGO、学校など）の連携強化</u></p> <p>2-4-1. ネットワークの構築</p> <p>2-4-2. 地域でのコンサルテーション会議</p> <p>地域でのコンサルテーション会議については、政情と治安状況を鑑みて開催を見送った。</p> |
| (3) 達成された成果 | <p>成果 1. 学校図書室普及のための基盤が強化されている。</p> <p>指標 1 - 1: 配布された学校で、マニュアルやガイドラインが有効活用されている。</p> <p>実績: マニュアル・ガイドラインが未配布であり未達成</p> <p>指標 1 - 2: TTC 学校が、図書館普及のモデル校として、機能している。</p> <p>モデル図書館の利用者数と貸出図書数</p> <p>2 年次</p> <p>1 年次の対象校の利用者が月当たり 0 から 100 人、貸出図書 0 冊から 30 冊に増加する。</p> <p>実績: 冬季休暇に入る前の 2021 年 10 月には月当たりの利用者が延べ 1,428 人に増加した。貸出図書は 2021 年 11 月初旬から中旬にかけて 44 冊となった。</p> <p>指標 1 - 3: 2 年次 3 年次のコンサルテーション会議にて、学校図書室に対する改善点が提案されている。</p> <p>実績: 2 年目の指標設定なし</p> <p>成果 2. 情報文化省管轄の子ども図書館が整備されている。</p> <p>指標 2 - 1: 学校にいけない子どもたちが、アクセスできる教育の機会がある。</p> <p>月あたりの延べ利用者数</p> <p>実績: 2 年目の指標設定なし</p> <p>指標 2 - 2:</p> <p>情報文化省・局が組織的、財政的に子ども図書館を運営できている。</p> <p>図書館運営に関して研修を受けた人員が配置されている。</p> <p>図書館運営に関する政府財源が確保されている。</p> <p>2 年次: 60%</p> <p>実績: 2 年次: 30%</p> <p>3 年次の子ども図書館建設地の選定にあたって、ナンガハル県情報文化局との話し合いを重ねる中で、図書館運営に関する光熱費等の維持費や図書館員の配置等を情報文化局が責任を持つ形で話が進んでいる。子ども図書館の運営に関わる人員の本格的な育成は 3 年次に予定している。</p> <p>●「持続可能な開発目標(SDGs)」に該当する目標における成果の視点</p> |

| | |
|----------|--|
| | <p>女子校（小、中、高）へのモデル学校図書館の建設及び学校図書館に関する研修の実施、移動図書館活動等のキャンペーンの実施を通して、ターゲット 4.1 の初等教育の普遍化および質の改善、4.5 の女子、脆弱層に対する教育格差の改善、4.7 の ESD、多様性についての教育、4.a 非暴力的、包括的、効果的な学習環境の提供、4.c 教員養成に寄与した。</p> |
| （４）持続発展性 | <p>建設したモデル学校図書館と供与した家具や図書等はナンガハル県教育局に譲渡し、登録されている。これらの管理の責任は当局が負うものの、実質的な維持管理は学校教員と地域住民が担う。３年次に教員・地域住民に対して施設維持管理研修を実施し、建物の損傷を最小限にとどめ長期にわたり利用できるよう、注意事項を説明する。また、３年次以降の学校図書館に関する教員研修やキャンペーン活動を通して、本校のみならず近隣校の児童や教員の利用も促し、本校の図書館がモデル図書館としての役割を担い機能するよう働きかけていく。</p> |